

Cargo Label Plus for LX-5500

ユーザーズガイド

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

1	Cargo Label Plus for LX-D5500 概要	1
1.1.	Cargo Label Plus for LX-D5500 とは.....	1
1.2.	Cargo Label Plus for LX-D5500 の特長.....	2
1.3.	Cargo Label Plus for LX-D5500 ご使用時の注意点.....	2
1.4.	Cargo Label Plus for LX-D5500 のお問い合わせ.....	2
2	Cargo Label Plus for LX-D5500 のセットアップ	4
2.1.	Cargo Label Plus for LX-D5500 の入手方法.....	4
2.2.	Cargo Label Plus for LX-D5500 のインストール.....	4
2.3.	Cargo Label Plus for LX-D5500 のアンインストール.....	6
3	Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動と終了	8
3.1.	Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動.....	8
3.2.	Cargo Label Plus for LX-D5500 の終了.....	9
3.3.	航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の設定.....	9
3.4.	航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の取得方法.....	10
4	ラベルの発行と基本的な使い方	12
4.1.	Cargo Label Plus for LX-D5500 の画面構成.....	12
4.2.	発行するラベルの選択と入力画面の表示.....	12
4.3.	データグリッドへの入力と表示される項目.....	14
4.4.	行の追加と編集.....	17
4.5.	行の削除.....	17
4.6.	ラベルタブの表示とラベル種類の切り替え.....	18
4.7.	ラベルタブの削除.....	18
5	よく使う項目の設定と使用方法	19
5.1.	よく使う項目とは.....	19
5.2.	よく使う項目への登録.....	19
5.3.	よく使う項目の使用.....	19
5.4.	よく使う項目からの削除.....	19
5.5.	よく使う項目の整理.....	20
6	印刷データのインポートとエクスポート	21
6.1.	インポートできるファイル.....	21
6.2.	先頭行データの見出しとして扱う場合の列仕様.....	21
6.3.	先頭行データの見出しとして扱わない場合の列仕様.....	22
6.4.	CSV ファイルのインポート.....	23

6.5. CSV ファイルのエクスポート	25
7 キャリア設定、フォワーダー設定の取り込み	27
7.1. キャリア設定の取り込みについて	27
7.2. キャリア設定の取り込み方法	27
7.3. フォワーダー設定の取り込みについて	29
7.4. フォワーダー設定の取り込み方法	29

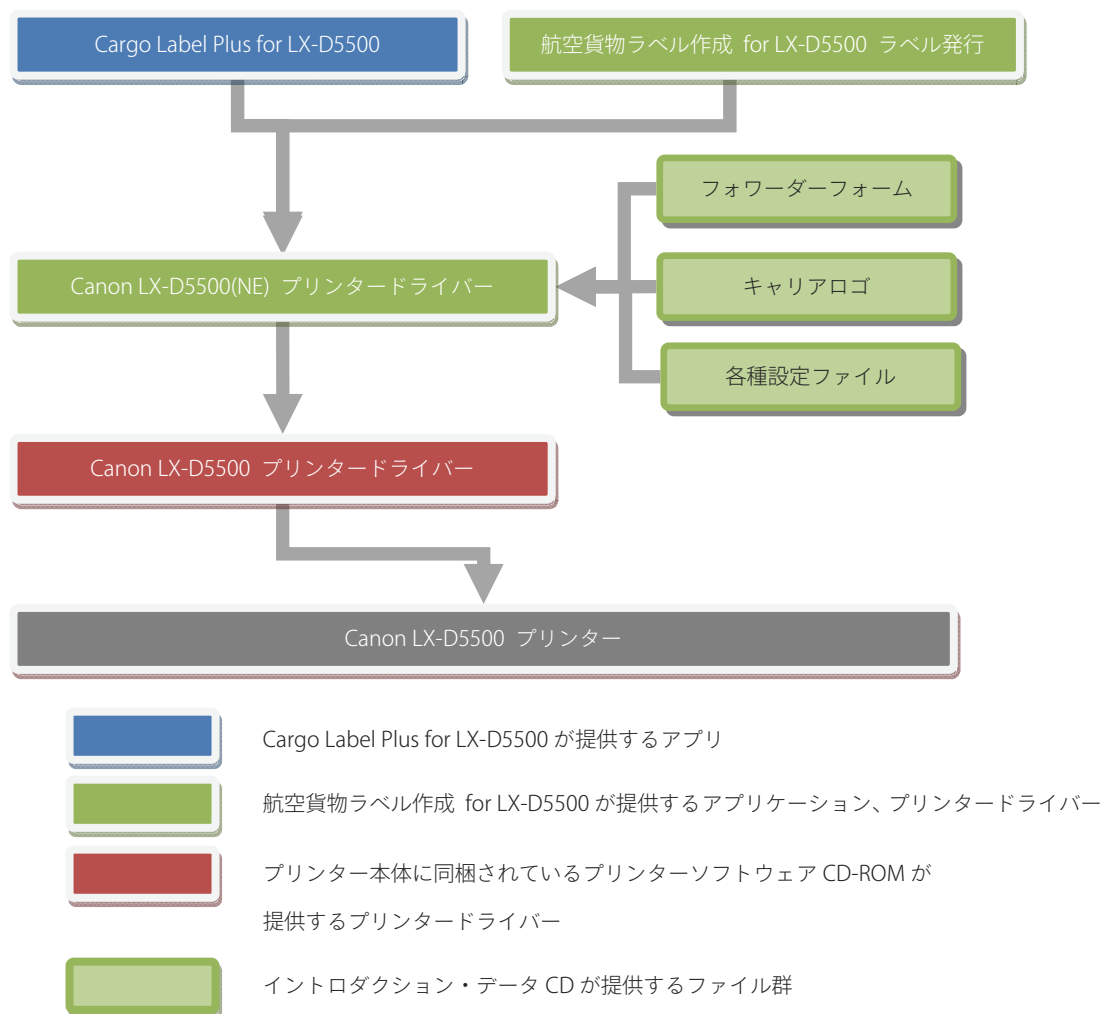
1 Cargo Label Plus for LX-D5500 概要

1.1. Cargo Label Plus for LX-D5500 とは

Cargo Label Plus for LX-D5500 はキヤノン カラーラベルプリンターを使用して IATA 決議 606 に準拠したラベルを出力できるソフトウェアです。Cargo Label Plus for LX-D5500 は Microsoft® Office Excel® のような表形式のインターフェースを提供しており、一度に複数のラベルのデータの入力、複数のラベルを発行することが可能です。また外部ファイルとして保存されている CSV ファイルのインポートを行い、入力の手間を低減することが可能です。

Cargo Label Plus for LX-D5500 は既存の航空貨物ラベルの発行環境を共用し、航空貨物ラベルを発行します。Cargo Label Plus for LX-D5500 は単独ではラベルを発行できません。キヤノン製の航空貨物ラベルを発行するパッケージソフトウェアである「航空貨物ラベル発行 for LX-D5500」やプリンター導入時に提供される「イントロダクション・データ CD」が提供するフォワーダーフォームやキャリアロゴなどが必要になります。

下図はプログラムやプリンタードライバー、各種ファイル群の関係とデータの流れを示しています。



1.2. Cargo Label Plus for LX-D5500 の特長

Cargo Label Plus for LX-D5500 には様々な特長があります。その一部をご紹介します。

- ✓ コンビラベル、マスタラベル、ハウ斯拉ベルを作成することが可能です。コンビラベル、ハウ斯拉ベルは航空貨物ラベル作成ソフトと同じフォワーダーに対応しています。
- ✓ Microsoft® Office Excel®のような表形式のインターフェース（データグリッド）を提供します。
- ✓ 一度に複数のラベルのデータの入力、複数のラベルを発行することが可能です。
- ✓ 外部ファイルとして保存されている CSV ファイルのインポートを行い、入力の手間を低減することが可能です。
- ✓ グリッド入力されている内容を CSV ファイルにエクスポート可能です。
- ✓ 一度に複数のラベル発行画面を開くことができます。
- ✓ よく使うラベルの種類を登録しておくことで、素早く入力画面を開くことができます。またアプリケーション起動時に自動的に入力画面を開くも可能です。
- ✓ キャリアの 2 レターや 3 コードを入力するとキャリアロゴが画面に表示されます。
- ✓ 発行枚数を個数として入力した値から取得、小文字で入力された仕向地を自動で大文字に変換するなど入力手間を軽減できます。
- ✓ 新規や変更のあるキャリアやフォワーダーのフォームファイルやロゴファイルのコピー、アプリケーションの設定を自動で行えます。

1.3. Cargo Label Plus for LX-D5500 ご使用時の注意点

Cargo Label Plus for LX-D5500 は使いやすさを第一に作成されていますが、いくつか制限があります。ご使用の際は以下の点にご注意ください。

- ✓ Cargo Label Plus for LX-D5500 は単独ではラベルを発行できません。キャノン製の航空貨物ラベルを発行するパッケージソフトウェアである「航空貨物ラベル発行 for LX-D5500」がインストールされている必要があります。
- ✓ ラベルを発行できるプリンターはキャノン LX-D5500 です。旧機種である LX 760 や P-640L では使用できません。
- ✓ 航空貨物ラベル発行ソフトウェアで発行のできるケースマークラベルやバーコードラベルは発行できません。
- ✓ 仕向地の 8 桁入力はできません
- ✓ 対応 OS は Microsoft® Windows® 10/8/7 です。Windows Vista®や XP/2000 には対応していません。

1.4. Cargo Label Plus for LX-D5500 のお問い合わせ

Cargo Label Plus for LX-D5500 についてのお問い合わせやご質問はキャノン 航空貨物ラベルサポートサイトの「航空貨物ラベルに関する問合せ受付フォーム」からお問い合わせください。

キャノン 航空貨物ラベルサポートサイトへは <http://canon.jp/labelprinter> の、[業種別・用途別モデルケース]

の[航空貨物業(航空貨物ラベル)]から[航空貨物ラベルサポートサイト]にアクセスしてください。

2 Cargo Label Plus for LX-D5500 のセットアップ

この章では Cargo Label Plus for LX-D5500 の入手方法とインストール方法、アンインストール方法について説明します。

2.1. Cargo Label Plus for LX-D5500 の入手方法

Cargo Label Plus for LX-D5500 を入手はキャノンのホームページから行います。下記の手順で入手してください。

1. ラベルプリンターのソフトウェアのダウンロードページ
http://cweb.canon.jp/cgi-bin/download/select-product-by-catg.cgi?i_cd_pr_catg=129
にアクセスし、[ラベルプリンターの機種一覧] から“LX-D5500”を選んでください。
2. ご使用になる OS をお選びください。
3. [アプリケーション] から“Cargo Label Plus for LX-D5500”をお選びください。
4. Cargo Label Plus for LX-D5500 のダウンロードページが表示されます。
使用許諾契約書、注意事項をお読みになり、[ダウンロード開始] ボタンをクリックしてください。
5. インストーラーを保存する場所の確認画面が表示されたら、任意の場所を指定し、ダウンロードを行ってください。

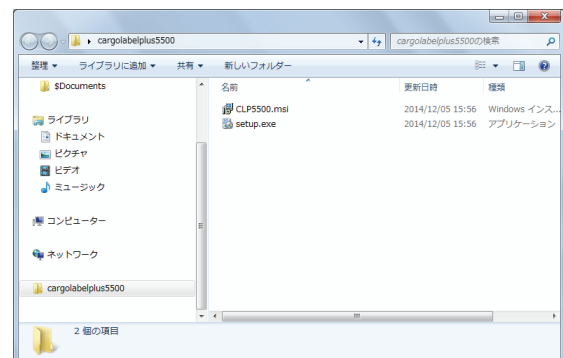
2.2. Cargo Label Plus for LX-D5500 のインストール

Cargo Label Plus for LX-D5500 のインストールはダウンロードしたインストーラーから行います。インストールの際には以下の点にご留意ください。

- ✓ インストールを行うには Administrators グループに所属しているユーザーでログインしてから行ってください。

- 1) ダウンロードしたファイル clp5500-v130.zip を解凍します。
 (“v130”の部分は変わることがあります)

- 3) clp5500-v130 フォルダを表示します。
解凍して作成される clp5500-v130 フォルダをダブルクリックしてください。
clp5500-v130 フォルダの内容が表示します。

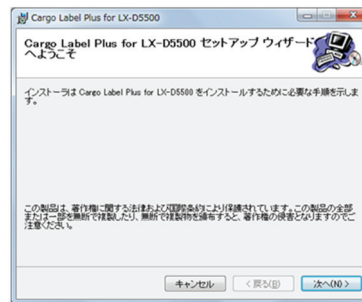


- 4) インストーラーを実行します。

clp5500-v130 フォルダの CLP5500.msi をダブルクリックし、インストーラーを実行します。

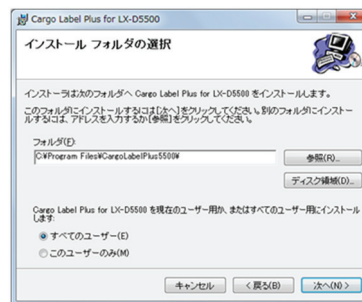
5) Cargo Label Plus for LX-D5500 セットアップ ウィザードが始まります。

[次へ(N)]をクリックしてください。



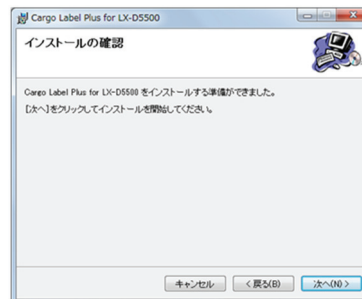
6) インストールフォルダの選択画面が表示します。

インストールするフォルダを指定し、[次へ(N)]をクリックしてください。



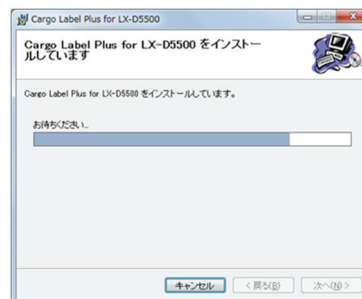
7) インストールの確認画面が表示します。

設定した内容でインストールを開始します。よろしければ[次へ(N)]をクリックしてください。設定を変更する場合は[戻る(B)]をクリックし、設定をし直してください。



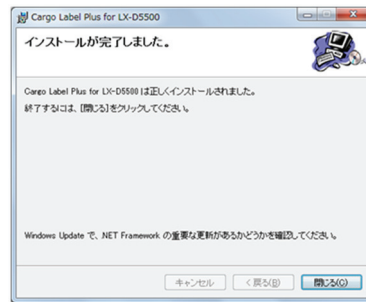
8) インストールが行われます。

しばらくお待ちください。



9) インストールの完了です。

下記画面が表示されたら、インストールは完了です。[閉じる(C)]をクリックしてください。



2.3. Cargo Label Plus for LX-D5500 のアンインストール

Cargo Label Plus for LX-D5500 のアンインストールはコントロールパネルから行います。インストールの際には以下の点にご留意ください。

1) コントロールパネルを開きます。

コントロールパネルは Windows の[スタート]メニューから開きます。

ご使用のコンピューターの OS が Windows 10 の場合

Windows の[スタート]メニューを右クリックし、[コントロールパネル(C)]を選択します。

2) コントロールパネルの[プログラムの追加と削除]を開きます。

コントロールパネルの [プログラム] カテゴリにある[プログラムのアンインストール]をダブルクリックします。



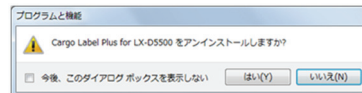
3) Cargo Label Plus for LX-D5500 を選択します。

インストールされているプログラムの一覧から Cargo Label Plus for LX-D5500 を選択し、[アンインストール]をクリックします。



4) 削除の確認画面が表示します。

削除の確認画面が表示されたら、[はい(Y)]をクリックします。



5) 削除が始まります。

しばらくお待ちください。



6) アンインストールの完了です。

インストールされているプログラムの一覧が再度表示されます。一覧から Cargo Label Plus for LX-D5500 が削除されているのを確認し、画面右上のクローズボタンをクリックします。



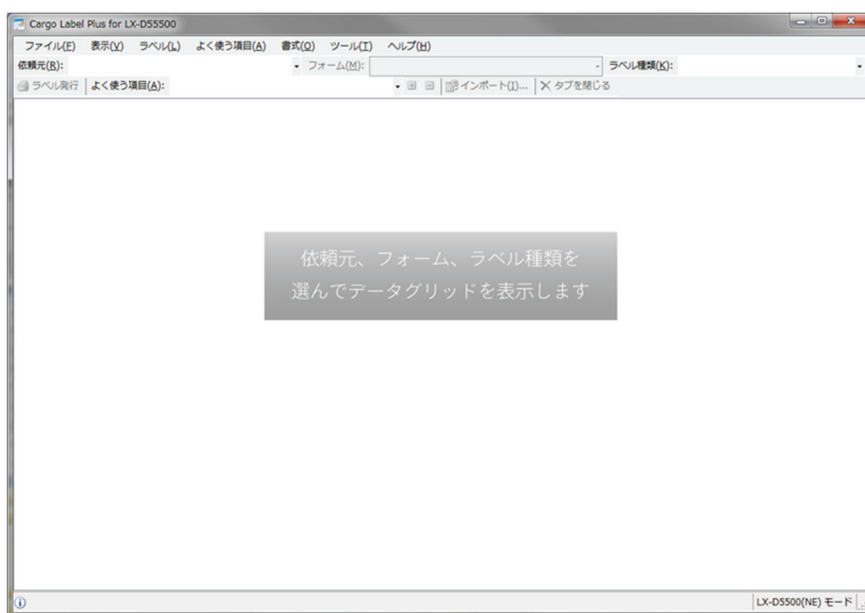
3 Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動と終了

この章では Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動方法と終了方法について説明します。

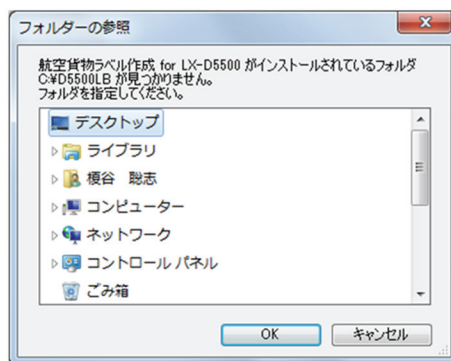
3.1. Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動

CLP Label Plus の起動は Windows の [スタート]メニューから、[すべてのプログラム]-[Cargo Label Plus for LX-D5500]-[ラベル発行]を選択します。

3.1.Cargo Label Plus for LX-D5500 が起動し、[メイン]画面が表示します。



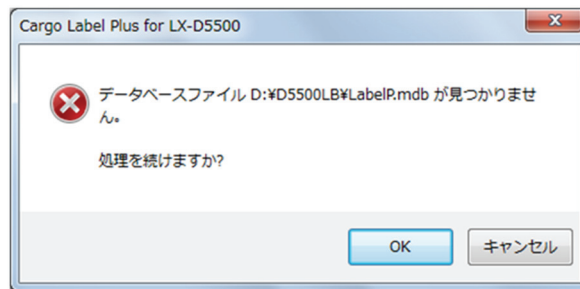
CLP Label Plus for LX-D5500 の起動を起動した際、次の画面が表示される場合は航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先を指定する必要があります。



この画面が表示されましたら、「3.3 航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の設定 (P.9)」を参照して、航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の指定を行ってください。



Cargo Label Plus for LX-D5500 を起動した際、次の画面が表示される場合は航空貨物ラベル作成ソフトが正しくインストールされていない可能性があります。



この画面が表示されたら、航空貨物ラベル作成ソフトからラベルが正しく発行できるかご確認ください。

正しく発行できるのを確認後、再度 Cargo Label Plus for LX-D5500 を起動し、上の画面が表示される場合は

- ✓ C:\¥D5500LB フォルダに Logo フォルダ、Form フォルダ、LabelP.mdb
(航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先が C ドライブの場合)
- ✓ D:\¥D5500LB フォルダに Logo フォルダ、Form フォルダ、LabelP.mdb
(航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先が D ドライブの場合)

が実在するかご確認ください。

3.2. Cargo Label Plus for LX-D5500 の終了

Cargo Label Plus for LX-D5500 の終了の方法には以下の 2 通りがあります。

メニューから終了する

Cargo Label Plus for LX-D5500 の[ファイル(F)]メニューから[終了(X)]をクリックします。

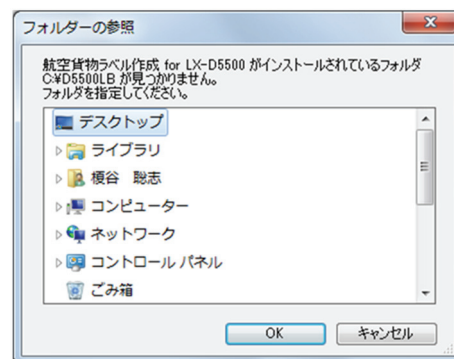
[閉じる]ボタンから終了する

メイン画面の右上の[閉じる]ボタンをクリックします。

3.3. 航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の設定

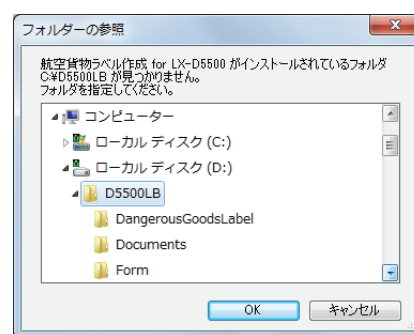
Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動を起動した際、次の画面が表示される場合は航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先を指定する必要があります。

通常、航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先は C:\¥D5500LB フォルダであり、そのときはこの画面は表示されません。この画面は C:\¥D5500LB 以外のフォルダにインストールされているときに表示されます。



この画面から航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先を次の図のように指定し、[OK]をクリックしてください。

右は航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先が D:\D5500LB フォルダのときの例です。



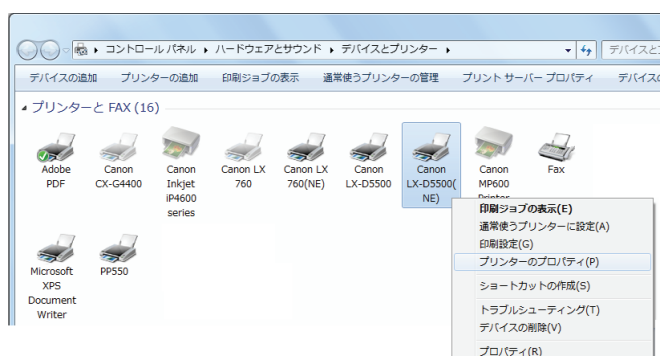
しばらくすると[メイン]画面が表示します。この設定は Cargo Label Plus for LX-D5500 を初めて起動したときに表示するものです。一度設定すると次回以降は表示されません。

3.4. 航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の取得方法

航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の取得は、以下の手順をお読みください。

7) プリンターの一覧から Canon LX-D5500(NE)のプロパティを表示します。

コンピューターにインストールされているプリンターの一覧にある Canon LX-D5500(NE)を右クリックし、[印刷設定(E)...]をクリックします。



プリンターの一覧の表示は次の手順で行います。

ご使用のコンピューターの OS が Windows 10 の場合

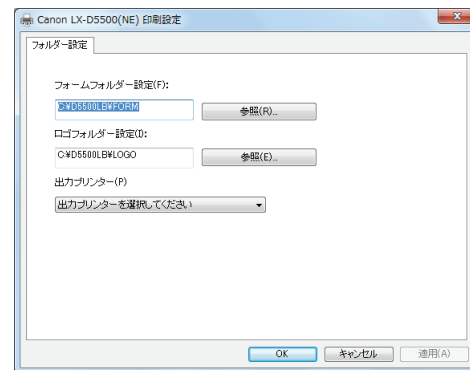
Windows の [スタート]メニューを右クリックし、[コントロールパネル]を選択後、[デバイスとプリンターの表示]を選択します。

ご使用のコンピューターの OS が Windows 8/7 の場合

Windows の [スタート]メニューから、[デバイスとプリンター]を選択します。

2) フォームフォルダ指定の内容を確認します。

[Canon LX-D5500(NE) 印刷設定]ダイアログが表示したら、[フォルダ設定]タブにある[フォームフォルダ指定]の内容を確認します。右図の場合は C:¥D5500LB¥FORM になります。



3) 航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先の取得。

航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先は 2)で調べたフォルダの1つ上のフォルダになります。例えば[フォームフォルダ指定]の内容が C:¥D5500LB¥FORM だった場合、航空貨物ラベル作成ソフトのインストール先は C:¥D5500LB フォルダになります。

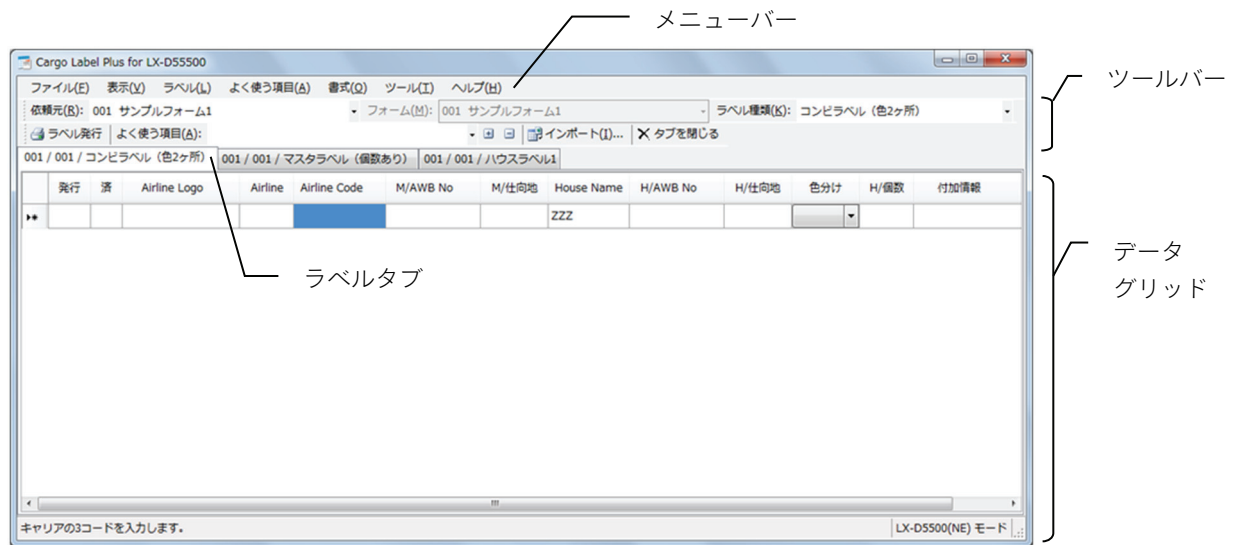
4 ラベルの発行と基本的な使い方

この章では Cargo Label Plus for LX-D5500 の基本的な使い方について説明します。

4.1. Cargo Label Plus for LX-D5500 の画面構成

Cargo Label Plus for LX-D5500 のメイン画面の以下のような構成をしています。

下記の図は複数のラベル種類を選んだときのものです。ラベル種類が選ばれていない場合はラベルタブ、データグリッドは表示されません。



メニューバー

Cargo Label Plus for LX-D5500 の機能を使用する場合にクリックし、機能を選択します。

ツールバー

発行する依頼元やラベル種類を選んだり、よく使う機能を簡単にアクセスしたりするために使用します。

ラベルタブ

クリックすると、データグリッドの切り替えができます。ラベルタブはラベル種類ごとに複数配置することが可能です。

データグリッド

ラベルとして発行するデータを行単位で入力します。ラベルタブをクリックすることで切り替えができます。

4.2. 発行するラベルの選択と入力画面の表示

Cargo Label Plus for LX-D5500 を使用してラベルを発行するには航空貨物ラベル作成ソフトと同じように、

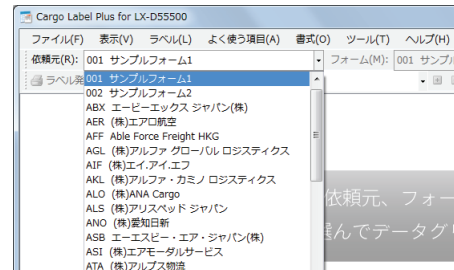
- ✓ 依頼元
- ✓ フォーム
- ✓ ラベル種類

を選択し、入力画面を表示します。

発行するラベルの選択と入力画面の表示は、以下の手順をお読みください。

1) [依頼元]リストからラベルの依頼元を選択します。

ツールバーにある[依頼元(R)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[依頼元(R)]からラベルの依頼元を選択します。



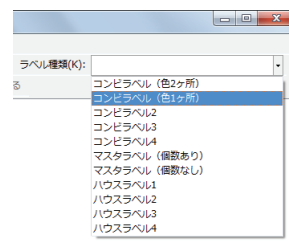
2) [フォーム]リストからフォームを選択します。

ツールバーにある[フォーム(M)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[フォーム(F)]からフォームを選択します。

フォワーダーが固定されている場合、リストは使用できません。[依頼元]リストで選択されたものが自動的に選択されます。

3) [ラベル種類]リストからラベルの種類を選択します。

ツールバーにある[ラベル種類(K)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[ラベル種類(K)]には選択したフォームに関連付けられているラベルの種類がコンビラベル、マスタラベル、ハウ斯拉ベルの順で表示されます。



リストから発行するラベルの種類を選択します。

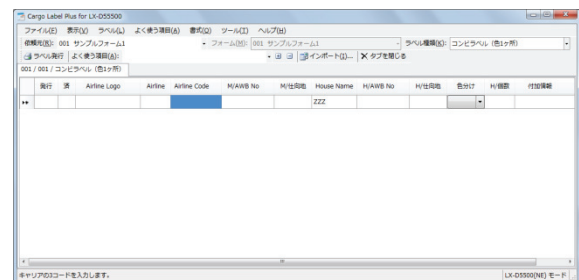


ウインドウの横幅がせまい場合、[ラベル種類(K)]リストの表示が欠ける場合があります。

その場合はウインドウを最大化して、[ラベル種類(K)]リストを表示してください。

4) ラベルの入力画面が表示します。

選択したフォーム、ラベル種類に関連付けられた入力画面が表形式で表示します。表示されている列は選択したフォーム、ラベル種類により異なります。



4.3. データグリッドへの入力と表示される項目

ラベルに印字する項目はデータグリッドの行に入力します。航空貨物ラベル作成ソフトでは一件一葉でのラベル発行ですが、Cargo Label Plus for LX-D5500 では依頼元やフォーム、ラベル種類が同じであれば、一度に複数行のデータの入力が可能です。

セルの選択は入力したいセルをマウスでクリック、もしくは矢印キーで選択されているセルを移動します。入力したいセルに移動したら、キーを押下し、値を入力します。入力が確定したら、[Enter]キー、または[Tab]キーを押下、または別のセルをクリックします。

入力をキャンセルする場合は、[Esc]キーを押下します。

また入力できる項目は依頼元やフォーム、ラベル種類、設定などにより異なります。詳細は次の表をごらんください。

データグリッド 入力可能項目

項目名 (列名)	コンピラベル	マスタラベル	ハウスラベル	説明
発行	—	—	—	参照のみ。
済	—	—	—	参照のみ。
Airline Logo	—	—	—	参照のみ。
Airline	△	△	△	キャリアの2レターを入力します。
Airline Code	△	△	△	キャリアの3コードを入力します。
M/AWB No.	○	○		Air Waybill Number を8桁で入力します。
M/仕向地	○	○		マスタ部の仕向地を入力します。
M/個数	△	△		マスタ部の個数を入力します。
House Name	△		△	House Air Waybill Number の Prefix を入力します。
H/AWB No.	○		○	House Air Waybill Number を入力します。
H/仕向地	○		○	ハウス部の仕向地を入力します。
色分け	△		△	仕向地の背景に色を付ける場合に指定します。
H/個数	○		△	ハウス部の個数を入力します。
H/分割搬入個数	△		△	分割搬入個数を入力します。
H/Piece No.	△		△	Piece No.を入力します。
付加情報	△	△	△	付加情報を入力します。
発行枚数	○	○	○	ラベルの発行枚数を入力します。

○: 必須入力、△: 任意入力、—: 入力不可 参照のみ、(なし): 列の表示なし

[発行]列

その行の入力したデータが正しく、ラベルの発行が可能になったら、チェックが表示されます。

ツールバーの[ラベル発行]ボタン、または[ファイル(F)]メニューから[ラベル発行(P)]を選択すると、この列にチェックが表示されている行のラベルが発行されます。

[済]列

ツールバーの[ラベル発行]ボタン、または[ファイル(F)]メニューから[ラベル発行(P)]を選択すると、[発行]列がチェックされている行の印刷データが作成されます。印刷データが作成、スプーラーに格納されるとチェックが表示します。

[Airline Logo]列、[Airline]列、[Airline Code]列

[Airline Logo]列には[Airline]列、または[Airline Code]列に入力した 2 レター、もしくは 3 コードに対応する航空会社のロゴが表示されます。

[Airline]列と[Airline Code]列は設定により一方のみ入力します。[Airline]列に 2 レターを入力すると[Airline Logo]列には対応する航空会社のロゴが、[Airline Code]列には 3 コードが表示します。[Airline Code]列に 3 コードを入力すると[Airline Logo]列には対応する航空会社のロゴが、[Airline]列には 2 レターが表示します。

[Airline]列と[Airline Code]列のどちらが優先的に入力できるかは航空貨物ラベル作成ソフトのフォワード設定の各ラベルの設定に依存します

例)

[Airline Code]列に 3 コードとして "000"
(架空の航空会社)を入力すると、

001 / 001 / コンピラベル (色1ヶ所)						
	発行	済	Airline Logo	Airline	Airline Code	M/AWB
⌘					000	
*						

[Airline Logo]列にその航空会社のロゴが、
また[Airline]列に 2 レターが表示されます。

001 / 001 / コンピラベル (色1ヶ所)						
	発行	済	Airline Logo	Airline	Airline Code	M/AWB
▶			 Heart Airways	ZZ	000	
*						

通常は航空貨物ラベル作成ソフトで設定されている航空会社の 2 レターや 3 コードのみ入力可能ですが、オプションの設定により、設定されていない航空会社の入力も可能です。ただしその場合は航空会社のロゴはラベルに印字されません。

[M/AWB No.]列

Air Waybill Number を 8 桁で入力します。スペースやハイフンを挿入する必要はありません。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワード設定にて、セブンチェックの有効/無効の指定が可能です。

[M/仕向地]列

マスタ部の仕向地を入力します。アルファベットおよび数値の入力が可能です。

オプションの設定により、入力された小文字を大文字に変換することも可能です。

[M/個数]列

マスタ部の個数を入力します。整数値の入力が可能です。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワード設定にて、列の表示/非表示の指定が可能です。

[House Name]列

House Air Waybill Number の Prefix を入力します。

初期値は航空貨物ラベル作成ソフトのフォワード設定にて登録されている内容が表示されます。

オプションの設定により、入力された小文字を大文字に変換することも可能です。

[H/AWB No.]列

House Air Waybill Number を入力します。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワーダ設定にて、セブンチェックの有効/無効の指定が可能です。

またオプションの設定により、入力された小文字を大文字に変換することも可能です。

[H/仕向地]列

ハウス部の仕向地を入力します。アルファベットおよび数値の入力が可能です。

オプションの設定により、入力された小文字を大文字に変換することも可能です。

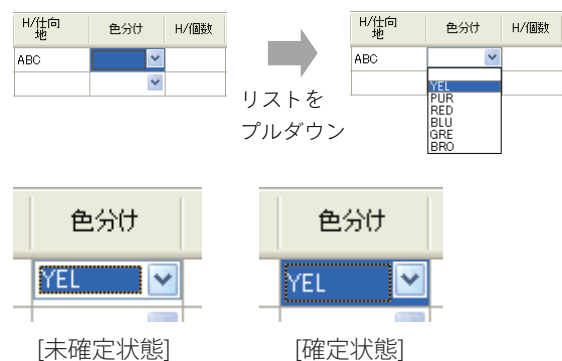
[色分け]列

仕向地の背景に色を付ける場合、リストから選択します。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワーダ設定にて、列の表示/非表示の指定が可能です。

リストから項目を選択すると、右図のようにセルの外枠が白く表示されます。これはまだ選択した項目が確定されていない状態です。

確定するには他のセルにフォーカスを移動、もしくは[Esc]キーを押下してください。

**[H/個数]列**

ハウス部の個数を入力します。整数値の入力が可能です。

ハウスラベルの場合、航空貨物ラベル作成ソフトのフォワーダ設定にて、列の表示/非表示の指定が可能です。

[H/分割個数]列

ハウス部の個数を入力します。整数値の入力が可能です。 [H/個数]列の値よりも小さな値を入力しなくてはなりません。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワーダ設定にて、列の表示/非表示の指定が可能です。

[H/Piece No.]列

ハウス部の Piece No.を入力します。

[H/個数]列に数値を入れると、[H/Piece No.]列には自動的に値がセットされます。例えば、[H/個数]列に "10" を入れると、[H/Piece No.]列には "1-10" と表示します。これは Piece No.を "1" から始めて、"10" までカウントアップすることを表しています。

通常、[H/Piece No.]列には値を入れ直す必要はありませんが、再発行で「10 個口の貨物のうち、3 個目ラベルのみを発行したい」という場合は、[H/Piece No.]列の "1-10" を "3" に変更し、発行します。ラベルのハウス部の個数は "10" ですが、Piece No.が "3" のラベルが 1 枚だけ発行されます。

再発行の場合は範囲指定や複数の Piece No.の指定も可能です。"6-8" とすると Piece No.が "6","7","8" の 3 枚のラベルが発行されます。"2,4" とすると Piece No.が "2","4" の 2 枚のラベルが発行されます。

[付加情報]列

付加情報を入力します。

航空貨物ラベル作成ソフトのフォワーダ設定にて、列の表示/非表示の指定が可能です。

[発行枚数]列

ラベルの発行枚数を入力します。整数値の入力が可能です。

オプションの設定により、入力された[M/個数]列、または[H/個数]列に入力した値を初期値として表示することも可能です。

4.4. 行の追加と編集

新規にラベル種類を選択すると、ラベルタブが追加し、データグリッドが新たに表示されます。その際データグリッドには空の行が1つ表示します。そのとき行の最左列の行ヘッダーには右図のような表示になります。

001 / 001 / コンビラベル2			
	発行	済	Airline
▶*			

三角形はカレント行を表し、米印は新規行であることを示しています。

また行が編集中心になると行ヘッダーは鉛筆マークが表示され、行が追加し、その行に米印が移動します。

001 / 001 / コンビラベル2			
	発行	済	Airline
✎			
*			

編集が終わり、変更が確定すると鉛筆マークが消え、三角形が表示します。

001 / 001 / コンビラベル2			
	発行	済	Airline
▶			♥
*			

4.5. 行の削除

入力した行が必要でなくなったり、印刷を終えたりした場合は行を削除する必要があります。削除する場合は任意の行の行ヘッダーを選択し、[Delete]キーを押下します。

[Shift]キーを押下しながら行ヘッダーを選択すると連続した行を削除対象にできます。また[Ctrl]キーを押下しながら行ヘッダーを選択すると右図のように離れた複数の行を削除対象にできます。

001 / 001 / コンビラベル2						
	発行	済	Airline Logo	Airline	Airline Code	M/AWB No
▶	✎		♥ Heart Airways	ZZ	000	11111111
	✓		♥ Heart Airways	ZZ	000	33333333
	✎		♥ Heart Airways	ZZ	000	55555555
*						

また右図のようにデータグリッドの左上を押下するとすべての行が選択できます。すべての行を削除する場合はこの方法が便利です。

001 / 001 / コンビラベル2						
	発行	済	Airline Logo	Airline	Airline Code	M/AWB No
▶	✎		♥ Heart Airways	ZZ	000	11111111
	✓		♥ Heart Airways	ZZ	000	33333333
	✓		♥ Heart Airways	ZZ	000	55555555
*						

4.6. ラベルタブの表示とラベル種類の切り替え

Cargo Label Plus for LX-D5500 ではラベルの種類を追加する毎にタブが追加されます。

例えば右図では3つのラベル種類が開かれており、タブにはそのラベル種類がどのようなものであるか記されています。

001 / 001 / コンビラベル2		001 / 001 / マスタラベル(個数あり)		001 / 001 / ハウスラベル1	
発行	済	Airline Logo	Airline	Airline Code	M/AWB No
▶	<input checked="" type="checkbox"/>	 Heart Airways	ZZ	000	11111111
*					

タブに“001 / 001 / コンビラベル2”とある場合は

- ✓ 依頼元のコード（ハウスネーム）が“001”
- ✓ フォームのコード（ハウスネーム）が“001”
- ✓ ラベル種類が“コンビラベル2”

のラベル種類のラベルタブとなります。

また Cargo Label Plus for LX-D5500 は複数のラベル種類を同時に開くことができ、別のラベル種類のラベルを発行する場合、今開いているラベル種類の画面を閉じる必要はありません。

例えば上図では“001 / 001 / コンビラベル2”。が選択されていますが、“001 / 001 / ハウスラベル”を選択する場合は、“001 / 001 / ハウスラベル”のラベルタブをクリックし、表示を切り替えます。

001 / 001 / コンビラベル2		001 / 001 / マスタラベル(個数あり)		001 / 001 / ハウスラベル1	
発行	済	House Name	H/AWB No	H/仕向地	色分け
▶*		ZZZ			<input checked="" type="checkbox"/>

4.7. ラベルタブの削除

表示されているラベルタブを削除するには、まず削除したいラベルタブを選択します。その後ツールバーの[タブを閉じる]ボタンをクリック、もしくは[ファイル(F)]メニューから[タブを閉じる(D)]をクリックします。

5 よく使う項目の設定と使用方法

この章ではよく使う項目（ラベル種類）を効率よく呼び出す方法とその管理方法について説明します。

5.1. よく使う項目とは

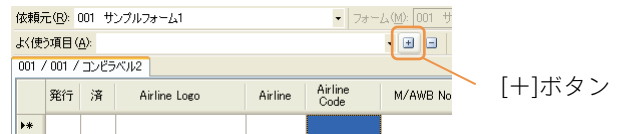
Cargo Label Plus for LX-D5500 では 100 を超えるフォワーダー、300 を超えるラベル種類をサポートしています。そのためラベルを発行したいラベル種類を呼び出すのは少し面倒な作業に感じられるかも知れません。また日頃よく使うラベル種類はほぼ決まっているではないでしょうか。

Cargo Label Plus for LX-D5500 ではインターネットブラウザのブックマークのように、日頃よく使うラベル種類を登録しておくことで、そのラベル種類のラベル発行画面を素早く開くことが可能です。また起動時に自動的に開くことも可能であり、ラベル発行作業が楽に行えます。

5.2. よく使う項目への登録

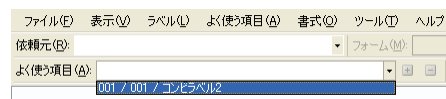
よく使う項目に登録をするには、まずそのラベル種類の発行画面を開きます。発行画面を開いたらツールバーの[+]ボタンをクリック、または[よく使う項目(A)]メニューから[よく使う項目]に追加(A)を選択します。

よく使う項目に登録されると、ツールバーの[よく使う項目(A)]リストボックスや[よく使う項目(A)]メニューに追加されます。



5.3. よく使う項目の使用

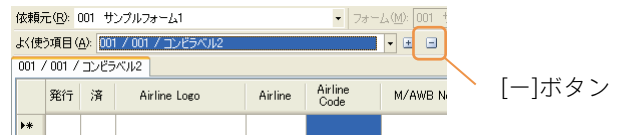
よく使う項目に登録したラベル種類を使用するには、ツールバーの[よく使う項目(A)]リストボックスや[よく使う項目(A)]メニューから選択して呼び出します。



5.4. よく使う項目からの削除

よく使う項目からラベル種類を削除するには、まずツールバーの[よく使う項目(A)]リストボックスや[よく使う項目(A)]メニューから選択して呼び出します。

削除したいラベル種類の発行画面が開いたらツールバーの[-]ボタンをクリック、または[よく使う項目(A)]メニューから[よく使う項目]から削除(D)を選択します。





5.5. よく使う項目の整理

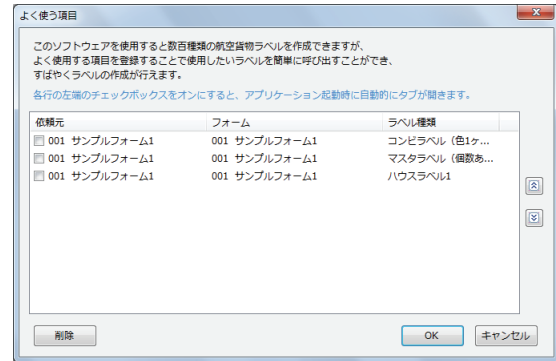
よく使う項目の表示順序の変更

よく使う項目として登録されているラベル種類を整理するには、[よく使う項目(A)]メニューから[よく使う項目の整理(O)...]を選択します。

[よく使う項目]画面には登録されているよく使う項目がリストに表示されます。

任意のよく使う項目の表示順序を変更したい場合は、リストからその項目を選択し、リストの左にある  をクリックし上方へ、 をクリックし下方へ移動します。

終えたら[OK]ボタンをクリックし、変更を確定します。



よく使う項目の自動表示

Cargo Label Plus for LX-D5500 の起動時によく使う項目を自動的に表示することが可能です。

[よく使う項目]画面のリストの各列の左あるチェックボックスをオンにし、[OK]ボタンをクリックすると、次回以降の起動時にチェックボックスをオンにしたよく使う項目が自動的に表示されます。

チェックボックスをオフにすると次回以降の起動時に自動的に表示されません。

依頼元	フォーム
<input checked="" type="checkbox"/> 001 サンプルフォーム1	001 サンプルフ
<input checked="" type="checkbox"/> 001 サンプルフォーム1	001 サンプルフ
<input type="checkbox"/> 001 サンプルフォーム1	001 サンプルフ

6 印刷データのインポートとエクスポート

この章では外部ファイルに格納された印刷データのインポート方法と外部ファイルへのエクスポート方法について説明します。

6.1. インポートできるファイル

Cargo Label Plus for LX-D5500 でインポートできるファイルは CSV ファイルになります。下記はインポートできる CSV ファイルの情報になります。

形式

インポートできる形式は区切り記号付き形式です。固定長形式には対応していません。

文字

インポートできる文字は付加情報を除き数字、アルファベット、シングルバイトの記号です。付加情報はこれに加え全角文字に対応しています。

文字コード

対応している文字コードは Shift JIS です。UTF-8 や他の文字コードには対応していません。

フィールド区切り記号

フィールド区切り記号はコンマ「,」(U+002C)を指定します。

テキスト区切り記号

テキスト区切り記号は必要ありませんが、ダブルクォート「"」(U+0022)で囲んでも構いません。ただしフィールド内にコンマ「,」が含まれる場合は、必ずダブルクォート「"」で囲む必要があります。

改行コード

CRLF (CRLF、U+000D U+000A) を指定します。

先頭行

CSV ファイルの先頭行をデータの見出しとして指定することが可能です。全行をデータとして取り扱うことも可能です。先頭行をデータの見出しとして扱うかはインポートファイルの定義画面にて指定することができます。

ファイル名

拡張子を "csv" にします。

6.2. 先頭行データの見出しとして扱う場合の列仕様

CSV ファイルの先頭行をデータの見出しとして指定する場合、列の順番は問いませんが、CSV ファイルの列と Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列の関連付けをする必要があります。

関連付けは CSV ファイルの先頭行の列名を Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列名と同じにすれ

ば、Cargo Label Plus for LX-D5500 が自動的に関連付けを行います。異なる列名の場合にはインポートファイルの定義画面にて、関連付けする Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列を選択する必要があります。ラベルの種類毎の Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列名は次の表をごらんください。

Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列名

Cargo Label Plus for LX-D5500 のデータグリッドの列名	コンピラベル	マスタラベル	ハウスラベル	説明
Airline	○	○	○	キャリアの2レターを指定します。
Airline Code	○	○	○	キャリアの3コードを指定します。
M/AWB No.	○	○		Air Waybill Number を8桁で指定します。スペースやハイフンは指定できません
M/仕向地	○	○		マスタ部の仕向地を指定します。
M/個数	△	△		マスタ部の個数を指定します。
House Name	△		△	House Air Waybill Number の Prefix を指定します。スペースやハイフンは指定できません
H/AWB No.	○		○	House Air Waybill Number を指定します。
H/仕向地	○		○	ハウス部の仕向地を指定します。
色分け	△		△	仕向地の背景に色を付ける場合にアルファベット3文字で指定します。
H/個数	○		△	ハウス部の個数を指定します。
H/分割搬入個数	△		△	分割搬入個数を指定します。
H/Piece No,	△		△	Piece No.を指定します。
付加情報	△	△	△	付加情報を指定します。
発行枚数	○	○	○	ラベルの発行枚数を指定します。

○: 必須、△: 任意、(なし): 不要

必要な列はラベルの種類や使用する項目の設定により異なります。

CSV ファイルのひな型はエクスポート機能を使用して、作成することが可能です。ひな型の作成は CSV ファイルのひな型を作成したいラベル種類を選択し、[ファイル(F)]メニューから[エクスポート(E)...]をクリックしてください。

CSV ファイルの例

先頭行データの見出しのある CSV ファイルの例です。

```
Airline, Airline Code, M/AWB No, M/仕向地, House Name, H/AWB No, H/仕向地, 色分け, H/個数, 付加情報, 印刷枚数
ZZ, 000, 11111111, AAA, ZZZ, 22222222, AAA, YEL, 100, Sample1, 100
ZZ, 000, 33333333, BBB, ZZZ, 44444444, BBB, , 200, Sample2, 200
```

6.3. 先頭行データの見出しとして扱わない場合の列仕様

CSV ファイルの先頭行をデータの見出しとして扱わない場合、Cargo Label Plus for LX-D5500 は先頭列から順にデータグリッドの列にデータを取り込むため、列の順番に留意する必要があります。

列の順番はラベルの種類や使用する項目の設定により異なります。列の順番は表示されているデータグリッドの列のうち、[発行] 列、[済] 列、[Airline Logo]列を除いた各列の左側からになります。

CSV ファイルのサンプルはエクスポート機能を使用して、作成することが可能です。ひな型の作成は CSV ファイルのひな型を作成したいラベル種類を選択し、データグリッドに仮のラベル発行のデータを入力します。入力後、[ファイル(F)]メニューから[エクスポート(E)...]をクリックするとサンプルが作成されます。

CSV ファイルの例

先頭行データの見出しのない CSV ファイルの例です。

```
ZZ, 000, 11111111, AAA, ZZZ, 22222222, AAA, YEL, 100, Sample1, 100
ZZ, 000, 33333333, BBB, ZZZ, 44444444, BBB, , 200, Sample2, 200
```

6.4. CSV ファイルのインポート

CSV ファイルのインポート方法は、以下の手順をお読みください。

1) CSV ファイルをインポートするラベル種類を選択します。

Cargo Label Plus for LX-D5500 のツールバーにある[依頼元(R)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[依頼元(R)]からラベルの依頼元を選択します。

次にツールバーにある[フォーム(M)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[フォーム(F)]からフォームを選択します。フォワーダーが固定されている場合、リストは使用できません。[依頼元]リストで選択されたものが自動的に選択されます。

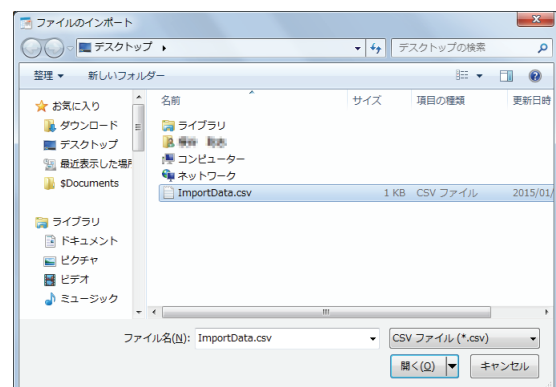
最後にツールバーにある[ラベル種類(K)]リスト、もしくは[ラベル(L)]メニューの[ラベル種類(K)]から発行するラベルの種類を選択します。

2) インポートボタン、もしくはインポートメニューを選択します。

Cargo Label Plus for LX-D5500 のツールバーにある[インポート(I)...]ボタンをクリック、もしくは[ファイル(F)]メニューの[インポート(I)...]を選択します。

3) インポートするファイルを選択します。

ファイルのインポートダイアログが表示されましたら、インポートするファイルを選択し、[開く(O)]をクリックします。



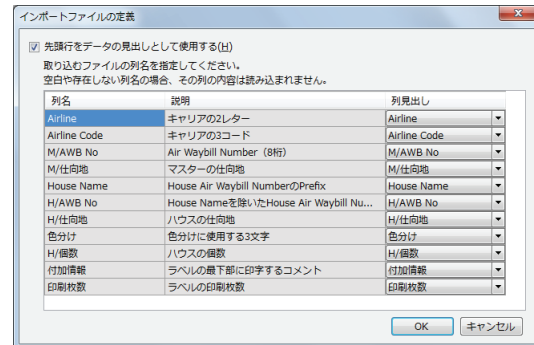
4) 列名と列見出しの関連付けを行います。

CSV ファイルの先頭行をデータの見出しとして扱う場合は、[先頭行をデータの見出しとして使用する(H)] チェックボックスをオンにします。

データの見出しとして扱う場合は、次に Cargo Label Plus for LX-D5500 の列名とインポートする CSV ファイルの先頭行の列名の関連付けを行います。

初めてインポートを行い、CLP Label Plus の列名とインポートする CSV ファイルの先頭行の列名が異なる場合は、[列見出し] 列は空白で表示されます。

リストから関連付けする CSV ファイルの先頭行の列名を選択してください。その列をインポートしない場合は、リストを空白にします。



[先頭行をデータの見出しとして使用する(H)]チェックボックスをオフにすると、各列は使用不可になります。

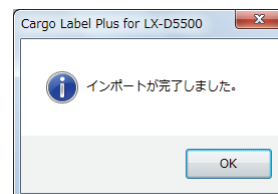


この場合は Cargo Label Plus for LX-D5500 の[発行] 列、[済] 列、[Airline Logo]列を除いた各列の左側から順番にデータを取り込みます。

関連付けが完了したら、[OK]をクリックします。

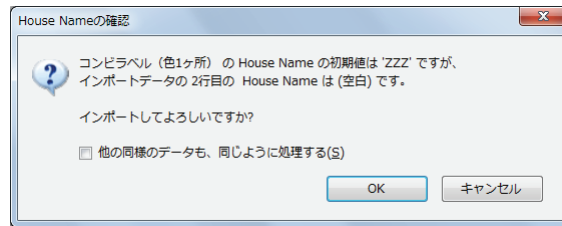
5) インポートが完了します。

右のダイアログが表示されましたら、インポートは完了です。





House Name の初期値と CSV ファイルの House Name の内容が異なる場合は、下のダイアログが表示します。



[OK]をクリックし、インポートを行うと、CSV ファイルの House Name の内容に上書きされます。

6.5. CSV ファイルのエクスポート

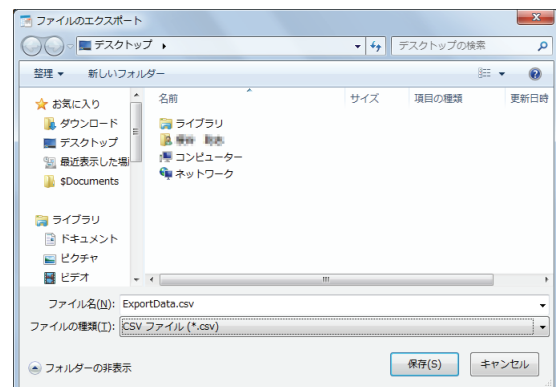
データグリッドに入力されている内容を CSV ファイルとして外部ファイルにエクスポートすることができます。CSV ファイルのエクスポート方法は以下の手順をお読みください。

1) エクスポートメニューを選択します。

エクスポートしたいデータグリッドを表示し、[ファイル(F)]メニューの[エクスポート(E)...]を選択します。

2) エクスポートするファイルを指定します

ファイルのエクスポートダイアログが表示されましたら、ファイル名を指定し、[保存(S)]をクリックします。



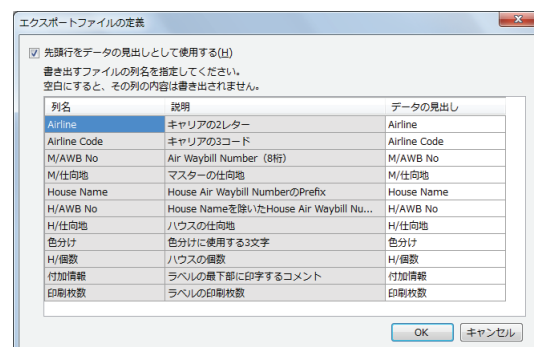
3) データの見出しの指定を行います。

CSV ファイルの先頭行にデータの見出しを挿入する場合は、[先頭行をデータの見出しとして使用する(H)]チェックボックスをオンにします。

データの見出しとして扱う場合は、その名前を各列指定します。

初期値は CLP Label Plus の列名が表示されています。

データの見出しを挿入しない場合は、[先頭行をデータの見出しとして使用する(H)]チェックボックスをオフにします。



4) エクスポートが完了します。

右のダイアログが表示されましたら、エクスポートは完了です。



7 キャリア設定、フォワーダー設定の取り込み

この章ではキャリア設定、フォワーダー設定の取り込みの方法について説明します。

7.1. キャリア設定の取り込みについて

航空貨物ラベル作成ソフトでは新たにキャリアの設定を行う場合、ファイルのコピーやアプリケーション設定ファイルの変更が必要です。Cargo Label Plus for LX-D5500 ではキャリア設定ファイルを取り込むことで、自動でファイルのコピーやアプリケーション設定ファイルの変更を行うことが可能です。

7.2. キャリア設定の取り込み方法

キャリア設定の取り込み方法は以下の手順をお読みください。

1) キヤノンホームページの航空貨物ラベルサポートサイトにログインします。

キヤノン 航空貨物ラベルサポートサイトにアクセスします。キヤノン 航空貨物ラベルサポートサイトへは <http://canon.jp/labelprinter> の、[業種別・用途別モデルケース]の[航空貨物業(航空貨物ラベル)]から[航空貨物ラベルサポートサイト]にアクセスしてください。

[シリアル番号]欄にご使用のラベルプリンターの機番を入力し、ログインしてください。

この航空貨物ラベルサポートサイトを「お気に入り」に登録しておく、今後のアクセスに便利です。

2) キャリアロゴ ダウンロードページにアクセスします。

サポートページにログインしましたら、[キャリアロゴ ダウンロード]欄のご使用の機種種の[ダウンロード]をクリックします。

3) 入手したいキャリアのロゴファイルをダウンロードします。

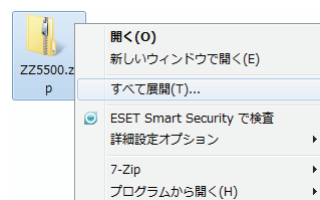
[キャリアロゴ]欄にある入手したいキャリアのロゴファイルの[ダウンロード]ボタンをクリックし、ダウンロードを行います。保存場所は任意の場所を指定してください。

4) ダウンロードしたファイルを解凍します。

ダウンロードしたファイルは圧縮されており、使用するためには展開する必要があります。

ダウンロードしたファイルを右クリックし、[すべて展開(A)...]をクリックします。

右図は2レターが“ZZ”という架空のキャリアの例です。実際のファイル名は“xx5500.zip” (xx はキャリアの2レター)になります。

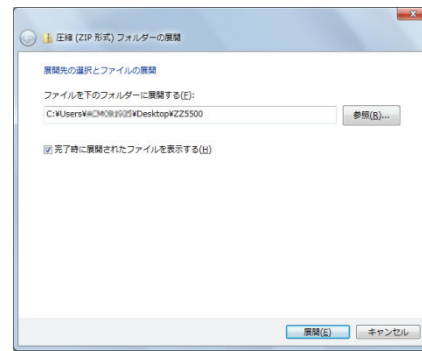


5) 展開場所をフォルダ指定します。

展開先のパスを指定します。

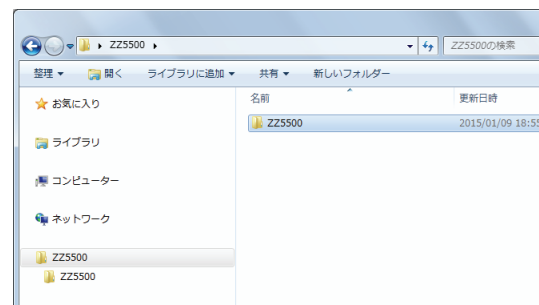
デフォルトのディレクトリ（フォルダ）は“xx5500.zip”（xx はキャリアの 2 レター）のあるフォルダになります。必要に合わせてディレクトリの場所を変更してください。

指定したら、[展開(E)]ボタンをクリックしてください。



6) 展開が終了します。

展開が終了したら、右図のように表示されます。

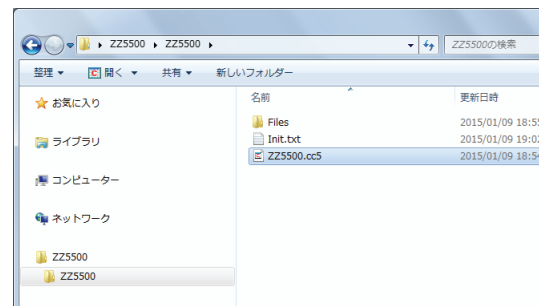


7) キャリア設定ファイルを確認します。

展開したフォルダには“xx5500”（xx はキャリアの 2 レター）というフォルダがあるので、まずそれを開きます。

フォルダを開くと“xx5500.cc5”（xx はキャリアの 2 レター）というファイルが見つかります。このファイルがキャリア設定ファイルになります。

※ Windows の設定によっては “.cc5” が表示されないこともあります。



8) キャリア設定の取り込みを起動します。

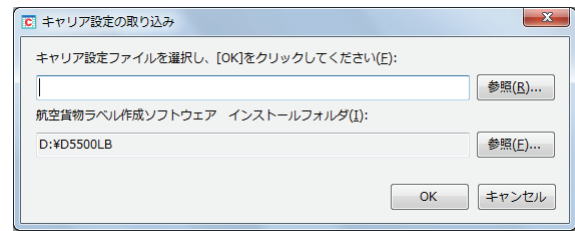
キャリア設定の取り込みを起動します。キャリア設定の取り込みは

- ✓ Cargo Label Plus for LX-D5500 の[ツール(T)]メニューの[キャリア設定の取り込み(C)...]を選択
- ✓ Windows の[スタート]メニューの[すべてのプログラム(P)]-[Cargo Label Plus for LX-D5500]-[キャリア設定の取り込み]を選択
- ✓ キャリア設定ファイル（拡張子が “.cc5” のファイル）をダブルクリック

のいずれかから行います。

キャリア設定の取り込みが起動すると右の画面が表示します。

- ※ キャリア設定ファイルをダブルクリックしたときは上のテキストボックスにキャリア設定ファイルのパスが表示されます。



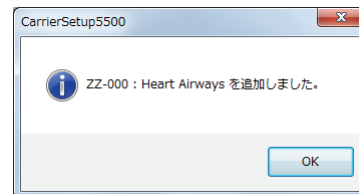
9) キャリア設定ファイルを指定します。

[参照(R)...]ボタンをクリックし、先ほど確認したキャリア設定ファイルを指定します。キャリア設定ファイルを指定が完了したら、[OK]をクリックします。

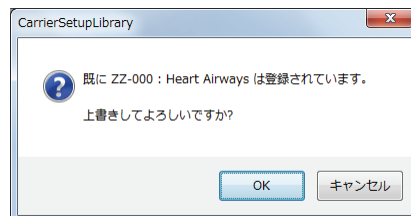
- ※ キャリア設定ファイルをダブルクリックしたときは [参照(R)...]ボタンをクリックする必要はありません。

10) キャリア設定の取り込みが完了します。

右のダイアログが表示されましたら、キャリア設定の取り込みは完了です。



キャリア設定の取り込みダイアログにて、[OK]をクリックしたとき、



が表示された場合は、すでにそのキャリアは登録されています。
ロゴの変更などを行う場合は[OK]をクリックしてください。

7.3. フォワーダー設定の取り込みについて

航空貨物ラベル作成ソフトでは新たにフォワーダーの設定を行う場合、ファイルのコピーやアプリケーションの設定が必要です。Cargo Label Plus for LX-D5500 ではフォワーダー設定ファイルを取り込むことで、自動でファイルのコピーやアプリケーションの設定を行うことが可能です。

7.4. フォワーダー設定の取り込み方法

フォワーダー設定の取り込み方法は以下の手順をお読みください。

1) キヤノンホームページの航空貨物ラベルサポートサイトにログインします。

キヤノン 航空貨物ラベルサポートサイトにアクセスします。キヤノン 航空貨物ラベルサポートサイトへは <http://canon.jp/labelprinter> の、[業種別・用途別モデルケース]の[航空貨物業(航空貨物ラベル)]から[航空貨物ラベルサポートサイト]にアクセスしてください。

[シリアル番号]欄にご使用のラベルプリンターの機番を入力し、ログインしてください。

この航空貨物ラベルサポートサイトを「お気に入り」に登録しておくと、今後のアクセスに便利です。

2) フォワーダーフォーム ダウンロードページにアクセスします。

サポートページにログインしましたら、[フォワーダフォーム ダウンロード]欄のご使用の機種種の[ダウンロード]をクリックします。

3) 入手したいフォワーダのフォームファイルをダウンロードします。

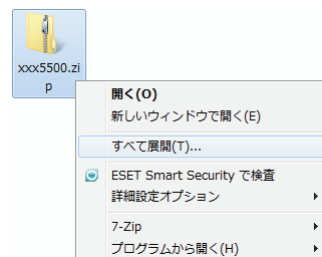
[フォワーダフォーム]欄にある入手したいフォワーダのフォームファイルの[ダウンロード]ボタンをクリックし、ダウンロードを行います。保存場所は任意の場所を指定してください。

4) ダウンロードしたファイルを解凍します。

ダウンロードしたファイルは圧縮されており、使用するためには展開する必要があります。

ダウンロードしたファイルを右クリックし、[すべて展開(A)...]をクリックします。

右図は IATA 代理店コードが "XXX" という架空のフォワーダーの例です。実際のファイル名は "xxx5500.zip" (xxx は IATA 代理店コード) になります。

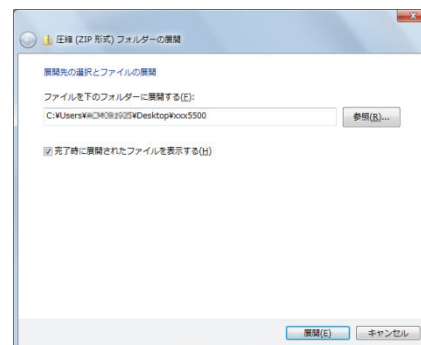


5) 展開場所をフォルダ指定します。

展開先のパスを指定します。

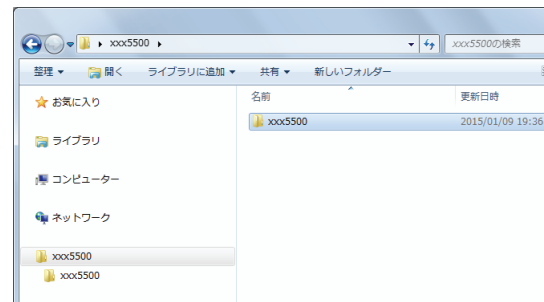
デフォルトのディレクトリ (フォルダ) は "xxx5500.zip" (xxx は IATA 代理店コード) のあるフォルダになります。必要に合わせてディレクトリの場所を変更してください。

指定したら、[展開(E)]ボタンをクリックしてください。



6) 展開が終了します。

展開が終了したら、右図のように表示されます。

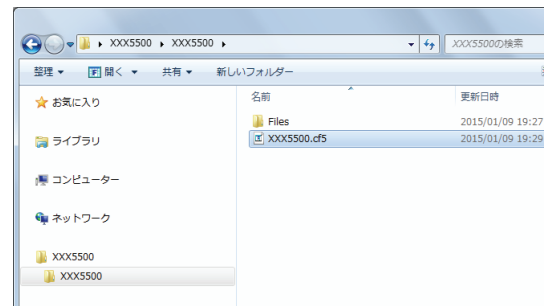


7) フォワーダー設定ファイルを確認します。

展開したフォルダには“xxx5500”（xxx は IATA 代理店コード）というフォルダがあるので、まずそれを開きます。

フォルダを開くと“xxx5500.cf5”（xxx は IATA 代理店コード）というファイルが見つかります。このファイルがフォワーダー設定ファイルになります。

※ Windows の設定によっては “.cf5” が表示されないこともあります。



8) フォワーダー設定の取り込みを起動します。

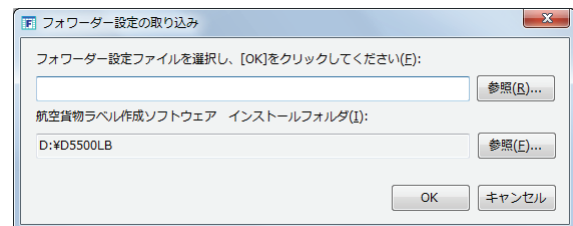
フォワーダー設定の取り込みを起動します。フォワーダー設定の取り込みは

- ✓ Cargo Label Plus for LX-D5500 の[ツール(T)]メニューの[フォワーダー設定の取り込み(F)...]を選択
- ✓ Windows の[スタート]メニューの[すべてのプログラム(P)]-[Cargo Label Plus for LX-D5500]-[フォワーダー設定の取り込み]を選択
- ✓ フォワーダー設定ファイル（拡張子が “.cf5” のファイル）をダブルクリック

のいずれかから行います。

フォワーダー設定の取り込みが起動すると右の画面が表示します。

- ※ フォワーダー設定ファイルをダブルクリックしたときは上のテキストボックスにフォワーダー設定ファイルのパスが表示されます。



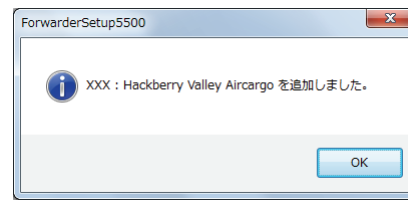
9) フォワーダー設定ファイルを指定します。

[参照(R)...]ボタンをクリックし、先ほどダウンロードしたフォワーダー設定ファイルを指定します。キフォワーダー設定ファイルを指定が完了したら、[OK]をクリックします。

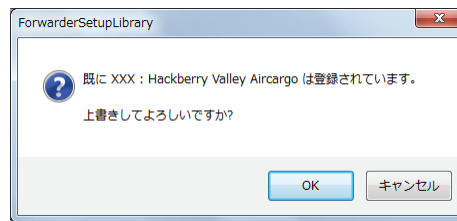
- ※ キフォワーダー設定ファイルをダブルクリックしたときは [参照(R)...]ボタンをクリックする必要はありません。

10) フォワーダー設定の取り込みが完了します。

右のダイアログが表示されましたら、フォワーダー設定の取り込みは完了です。



フォワーダー設定の取り込みダイアログにて、[OK]をクリックしたとき、



が表示された場合は、すでにそのフォワーダーは登録されています。
ロゴの変更や設定の上書きなどを行う場合は[OK]をクリックしてください。

